

# あゆみ薬局における 後発品使用の現状

「後発品変更可」処方箋発行の実態  
及び

処方箋発行後の患者さんの後発品に対する意識実態

京都シグマプランあゆみ薬局  
○小林知佐, 正岡育代

# 本日の内容

- 「後発品変更可」処方箋発行の実態
- 「後発品変更可」処方箋発行後の  
患者さんの後発品に対する意識実態
- 上記内容を踏まえた、薬剤師業務の  
今後について

# 「後発品変更可」処方箋発行の実態について

【調査方法】2006年4月1日～2006年6月30日までに発行され、当薬局で応需した処方箋を対象に、以下のごとく処方箋発行医療機関別に「後発品変更可」の処方箋に関する解析を行った。

A群：200床以上の病院群

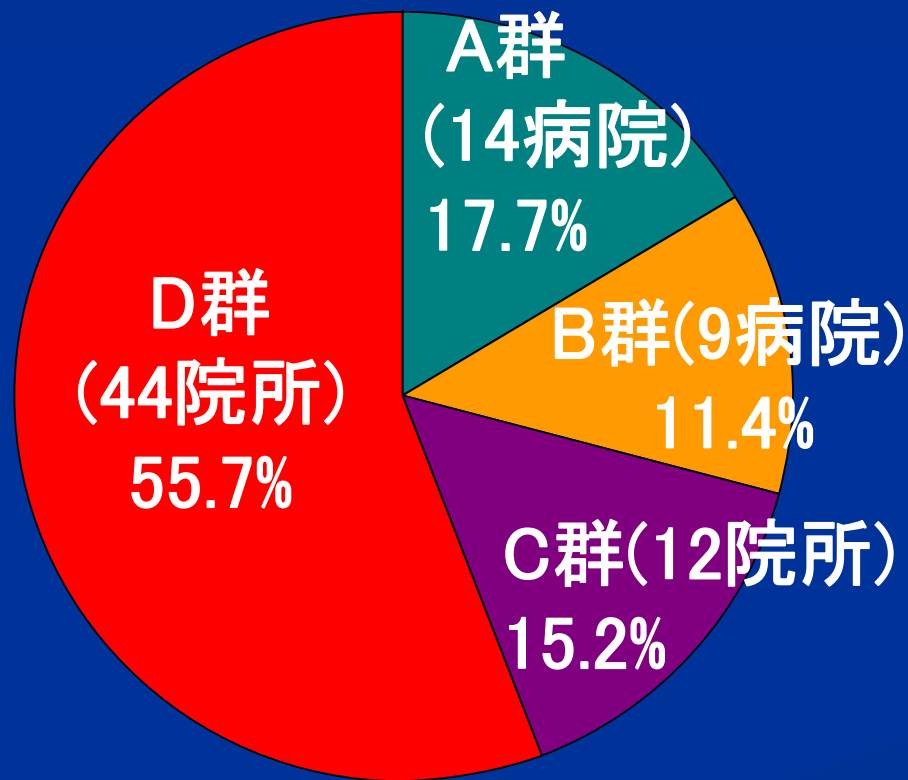
B群：200床未満の病院群

C群：診療所群

D群：医院，クリニック群

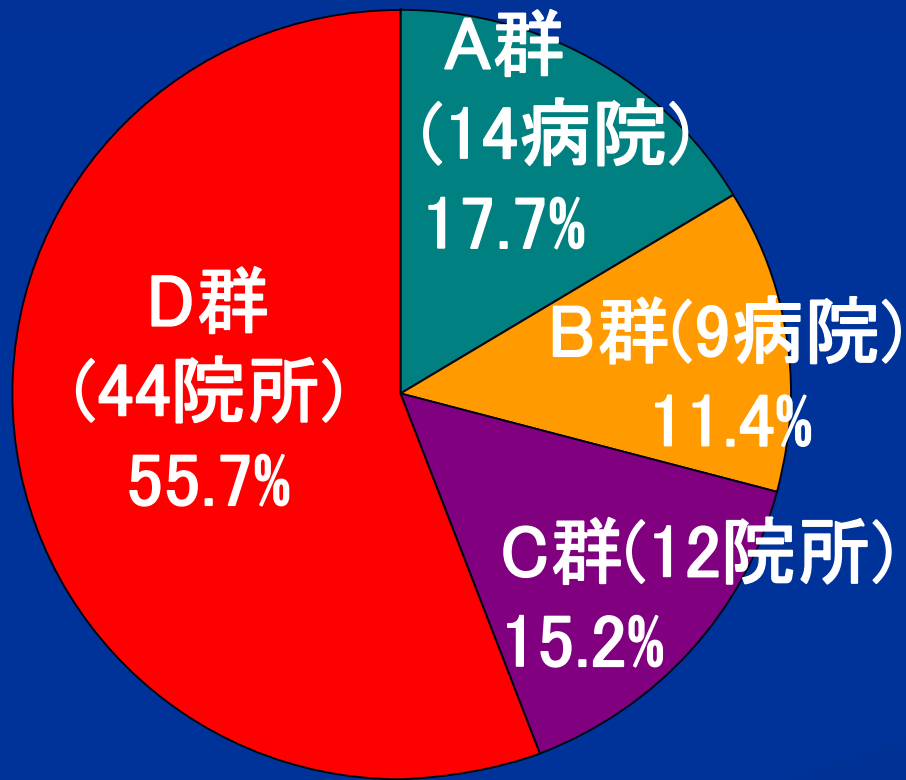
# 各群別処方箋応需比率

<院所数比率>

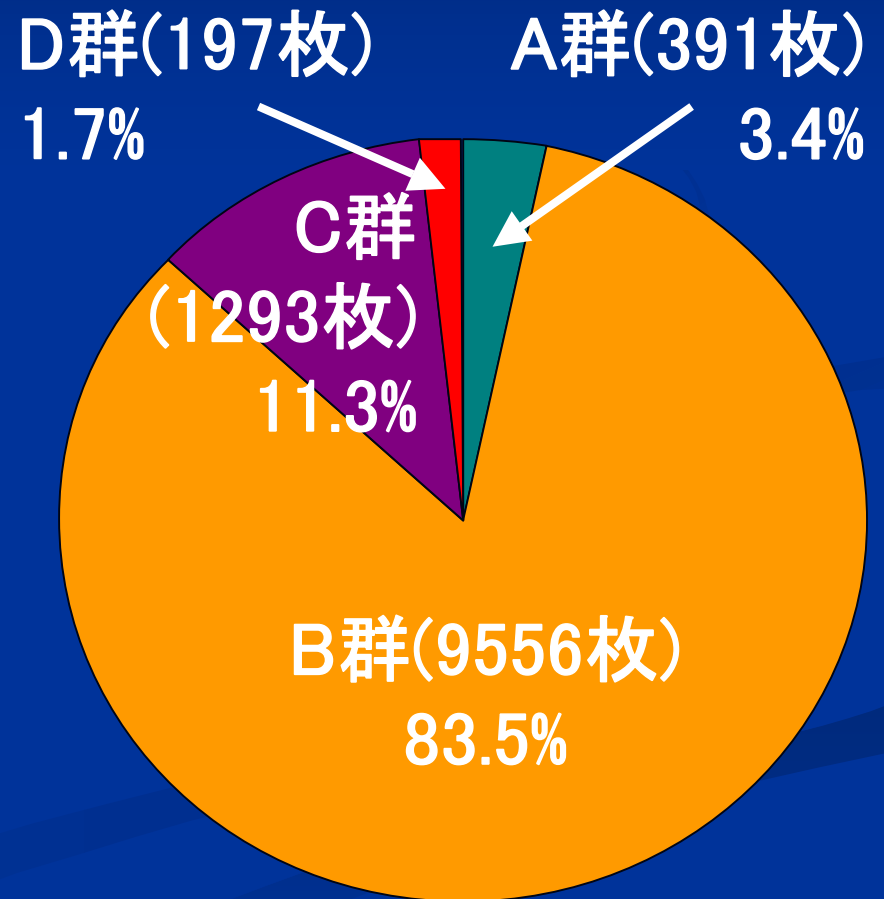


# 各群別処方箋応需比率

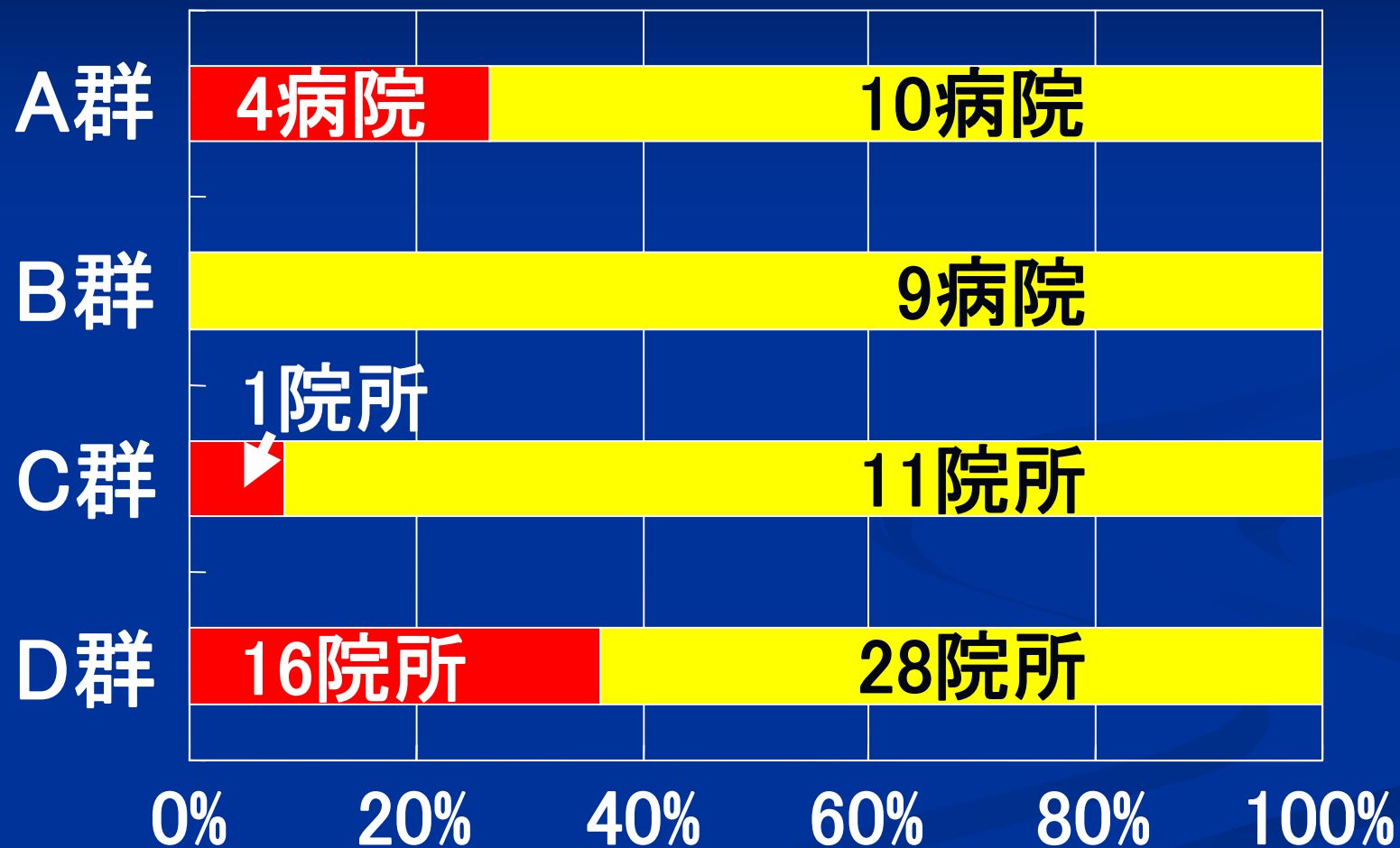
## <院所数比率>



## <処方箋枚数比率>



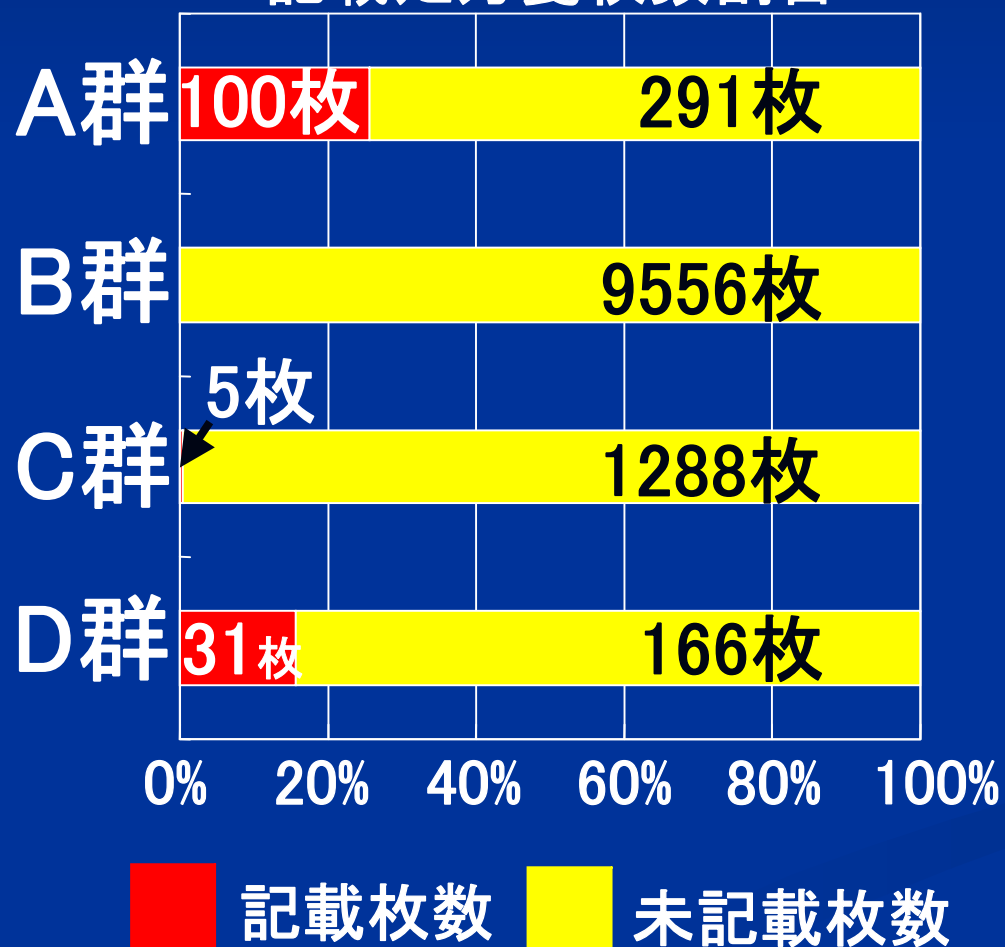
# 「後発品変更可」記載院所数割合



■ 記載院所数 ■ 未記載院所数 (グラフ内の数字は院所数)

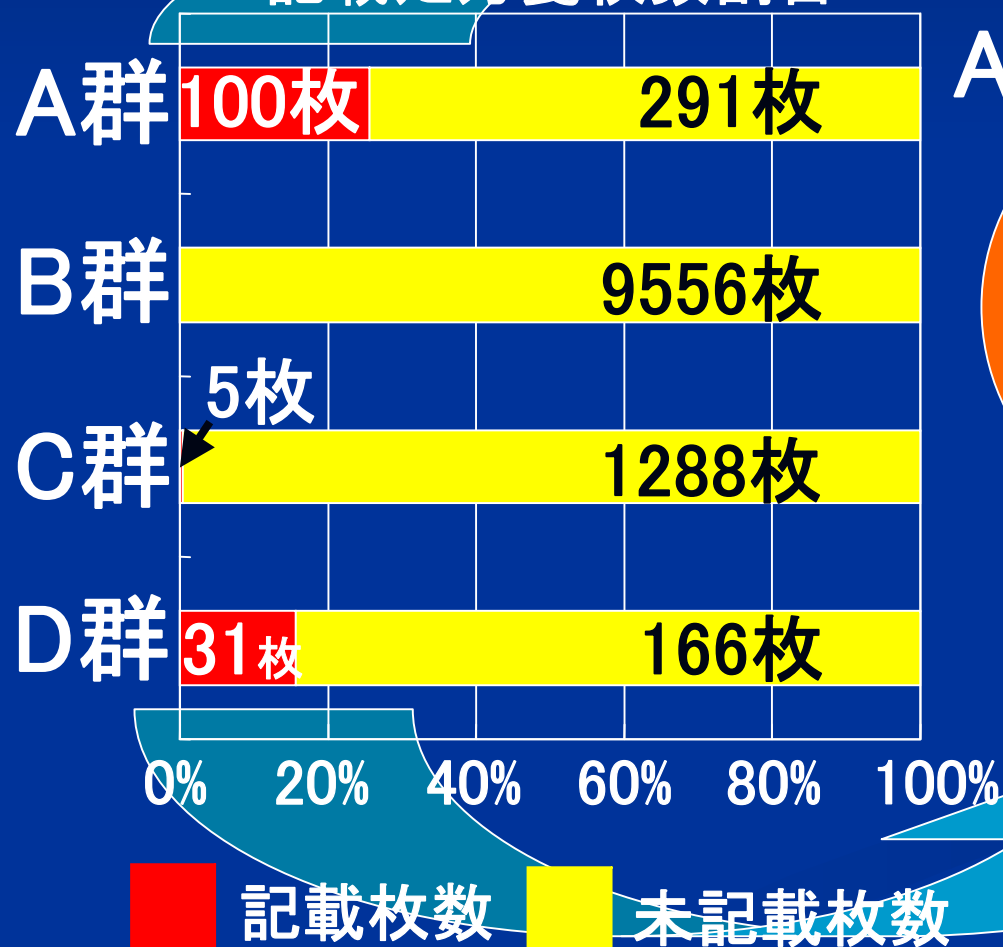
# 「後発品変更可」記載枚数割合

「後発品変更可」  
記載処方箋枚数割合

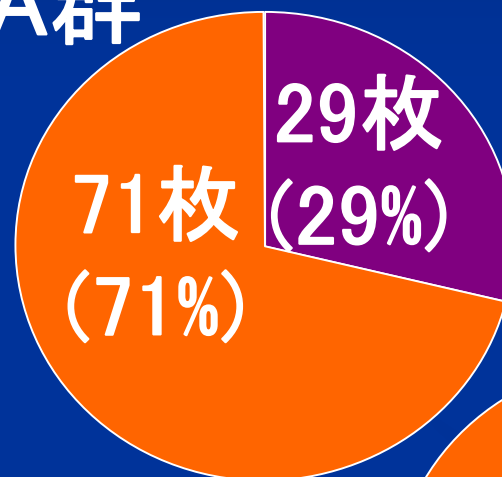


# 「後発品変更可」記載枚数割合 及び実際に変更された割合

「後発品変更可」  
記載処方箋枚数割合

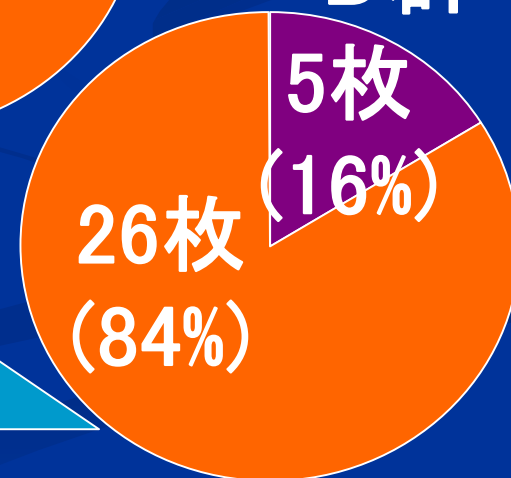


A群



- 変更に至った処方箋
- 変更されなかった処方箋

D群





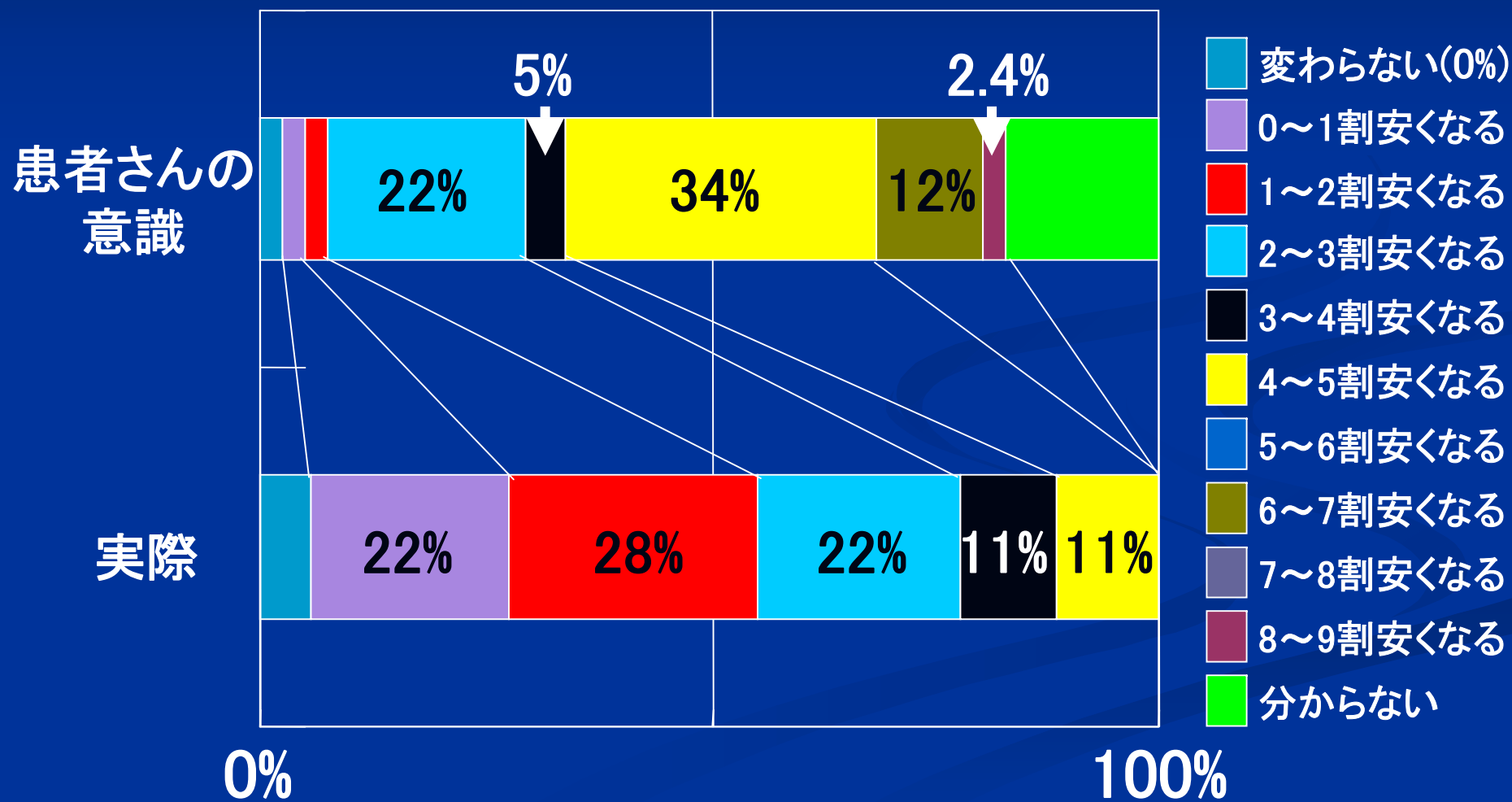
# 患者さんの後発品への意識調査

【調査方法】2006年8月21日～2006年8月31日までに来局された患者さん60名を対象に、以下の項目に関し、薬剤師による直接の聞き取り調査を実施した。

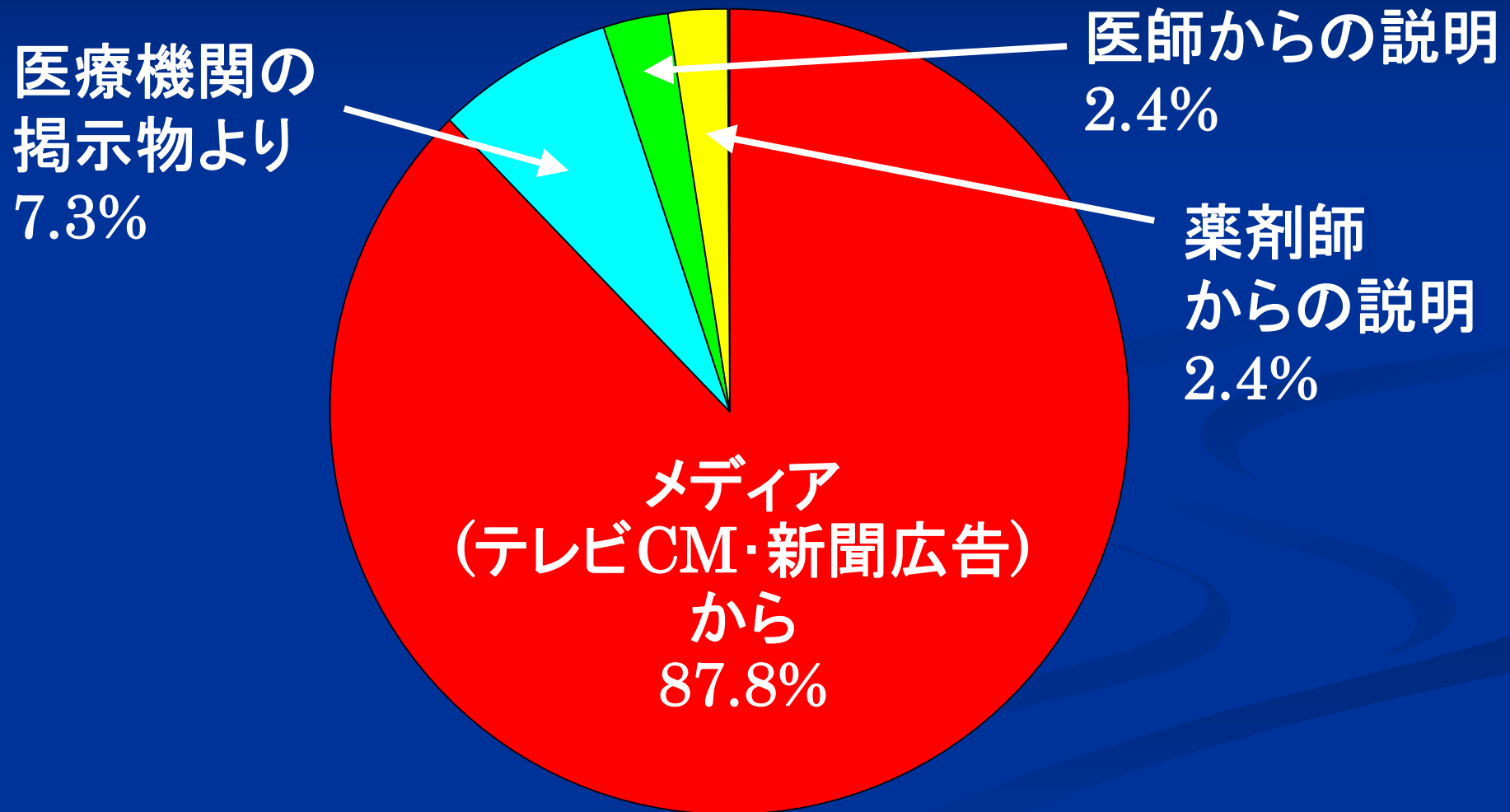
## 1. 後発品に関する調査

- ✓ 後発品に関する認知度
- ✓ 価格に関する意識調査
- ✓ 後発品に関する情報源の調査
- ✓ 後発品使用の予後調査

# 「後発品」への変更により 薬剤費が安くなる割合について 患者さんの意識と実際の相違



# どのようにして 「後発品」を知りましたか？



# まとめ -1-

1. あゆみ薬局で応需している「後発品変更可」処方箋発行の実態について調査を行った。
  - 院所としての発行比率は、医院・クリニック群が55.7%と最も高く、続いて200床以上の病院群が17.7%と続いた。
  - 処方箋枚数としての発行比率は、200床以上の病院が26.0%と最も高く、続いて医院・クリニック群が15.7%と続いた。また、200床未満の病院では、全く発行されていなかった。これは、既に吟味した後発品を処方しているためであった。
  - 実際に後発品への変更が行われた処方箋枚数としての発行比率は、200床以上の病院群の方が29%と高く、医院・クリニック群は16%にとどまった。これは、医院・クリニック群では実際に後発品への変更が不可能な処方箋等が見受けられたためである。

# まとめ -2-

2. あゆみ薬局における「後発品変更可」処方箋発行後の患者さんの後発品に対する意識実態について調査を行った。

- 患者さんの意識として、後発品への変更により薬剤費は4～5割安くなると考える人が34%と最も高く、さらに6～9割も安くなると考えている人が14.4%にも上ることが明らかとなった。
- 実際の後発品への切り替えにより、薬剤費は1～2割安くなったのが28%と最も多く、5割以上安くなったケースは存在しなかった。
- 患者さんの後発品に関する情報源は、メディアからが87.8%と最も多かった。

# 結 語

- 患者さんへの後発品に対する認識は、メディアの影響が多大であることが明らかとなった。
- 上記内容には、必ずしも正しい認識を与えるものばかりではないことも明らかとなった。
- 今回の調査結果を踏まえ、当薬局における患者さんへの後発品使用の促進に対し、薬剤師による更なる啓蒙活動の必要性を認識した。